

「自動化を進めるからこそ技能の伝承を、ITを駆使するからこそ基本の確認を」――有力コイルセ

ンターの根津鋼材（本社・東京都荒川区東日暮里、社長・根津博俊氏＝写真）が全社員を対象とし

た「社内勉強会」を開始して1年。工場／営業／事務それぞれにメニューを作成

根津鋼材

し、必要な知識や作業行動、伝承すべき技能などまずは基本を学び、身につけようというもの。

現場の自動化や事務合理化のためのIT化を積極的に進めており、かつての人手による煩雑作業や重労働がシステムに置き換わっている。それによる簡便さと効率化は、移行期が

過ぎ経年とともに中身（プロセス）の意味合いを理解せずに作業がこなされるというリスクも伴う。

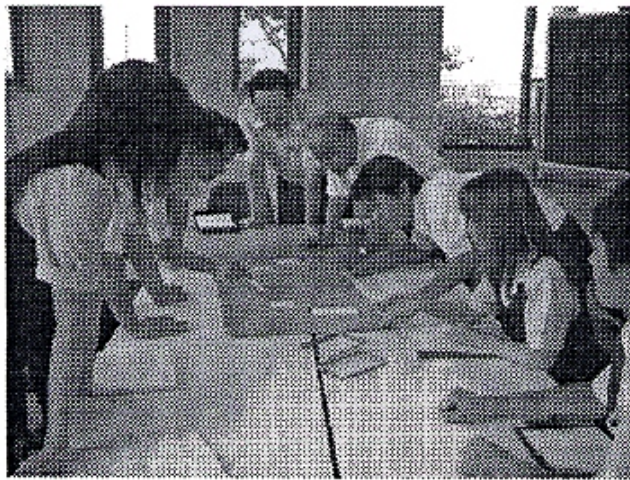
社内勉強会、1年経過

も顧客の急な要望に対応できる「現場力」を養うのが狙い。

「システムエラーなどトラブル発生時の対処法が分からない」「鉄（薄板）という現物を知らない」という事態を回避し、また、事務職で



伝承技能、作業の基本を現場で体得



“現場力”を養う教育

週一回の勉強会で、例えば、実際に表面処理鋼板を見て触って品種やサイズが分かるような訓練を、男女を問わず行う。同じ事務作業でも人による事務処理段取りの格差をなくすよう体系的にトレーニングしている。4力所ある各事業拠点では各所長が勉強会責任者で、部長職と共に関心を務め、拠点レベルを向上。事業所間格差を調整するテストも年4回実施し、社内水準をトップクラスに合わせている。同社では、より概念的な「教育研修」と、より五感的な「勉強会」とのバランスで人材を育成し、中長期的な視野で企業総合力を高めていきたい考え。